

# 浦河町観光振興計画



平成 31 年 3 月  
浦 河 町



## 【 目 次 】

第 1 章 浦河町観光振興計画について.....	2
1-1 計画策定の趣旨 .....	2
1-2 計画の位置付け .....	2
1-3 計画期間 .....	2
1-4 計画の対象範囲 .....	2
第 2 章 浦河町における観光の課題と基本理念 .....	3
2-1 浦河町の現状及び調査結果から示された課題 .....	3
2-2 基本理念 .....	4
第 3 章 計画の目標及び目標を達成するための施策 .....	5
3-1 計画の目標 .....	5
3-2 目標の達成状況を把握するための指標.....	6
3-3 目標達成のための観光振興に向けた具体的施策 .....	8
3-3-1 重点プロジェクトの設定 .....	8
3-3-2 施策体系 .....	9
第 4 章 計画推進体制.....	10
4-1 推進体制 .....	10
4-2 計画の見直し .....	11
4-2-1 P D C A サイクルによる見直し.....	11
4-2-2 継続的なモニタリングの実施 .....	11

# 第1章 浦河町観光振興計画について

## 1-1 計画策定の趣旨

本町では、これまで国内有数の軽種馬生産地という地域性と、自然や農水産品を魅力とした観光振興に取り組んできましたが、既存の観光イベントの継続的な実施や、単発的な観光PR活動が主体であり、戦略的な事業展開が不十分な状況にあります。また、サブレッド観光と乗馬、交流人口の拡大、町民の健康増進などの拠点施設として整備された優駿の里公園は、オープンから20年以上が経過し、施設全体の老朽化への対応やリニューアルなどを具体化する時期を迎えているなど、観光振興における課題が顕在化しています。

少子高齢化・人口減少の社会情勢下において、本町が将来的にも活力と魅力ある地域として発展するためには、農林水産業や商工業の活性化だけでなく、国内外からの「交流人口の増加」と、観光客の長期滞在など「外貨獲得」による持続的な地域経済の活性化を図ることが重要となっています。

しかしながら、本町は、温泉街や景勝地などとして広く認知された、いわゆる「観光地」ではないことから、豊かな「自然」や地元ならではの「食」の魅力を的確なマーケットに発信し、地域特有の「歴史・文化」など、人の暮らしに触れることができる優れた地域資源を観光資源として最大限活用した取り組みが必要です。

本計画は、本町の地域資源を活用し、観光メニューの充実・強化と付加価値の向上を図ることにより、国内外からの交流人口の増加と滞在型観光の推進による外貨獲得を図り、持続的な地域経済の活性化を実現するための基本理念や取り組むべき施策を提示するものです。

## 1-2 計画の位置付け

本計画は、第7次浦河町総合計画前期基本計画に掲げる観光振興について、政策を実現するための個別計画として、位置づけるものです。

## 1-3 計画期間

本計画の計画期間は、2018年度（平成30年度）から2022年度までの5か年とし、浦河町総合計画後期基本計画の策定や上位計画の見直しに合わせ、適宜、見直しを行うこととします。

## 1-4 計画の対象範囲

本計画の対象範囲は、浦河町全域とします。

ただし、半島地域における観光振興は近隣市町村との連携が不可欠であることから、日高地域及びその周辺地域との連携についても、計画の対象とします。

## 第2章 浦河町における観光の課題と基本理念

### 2-1 浦河町の現状及び調査結果から示された課題

浦河町の観光の現状やアンケート調査の結果などを踏まえ、今後の浦河町における観光振興を図るうえでの要因を整理しました。

表 2-1 SWOT分析

		プラス要因	マイナス要因
内部要因	<b>強み (Strengths)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎長期滞在が可能な複合拠点施設 (アエル)</li> <li>◎通年で過ごしやすい気候 (少雪涼夏)</li> <li>◎国内有数の馬産地で牧歌的な景観と自然景観を活かした乗馬体験メニュー</li> <li>◎世界レベルの育成環境を有する J R A 日高育成牧場</li> <li>◎日高山脈をはじめとする恵まれた自然環境</li> <li>◎道内有数の桜並木の名所</li> <li>◎アイヌ文化の継承に熱心な団体の存在と認知度向上</li> <li>◎地方港湾浦河港</li> <li>◎移住・交流促進対策事業</li> <li>◎浦河高等学校</li> <li>◎多様な水産資源</li> <li>◎来訪者の総合満足度は高く、とくに宿泊施設のサービスや食事に関する評価が高い</li> <li>◎道外客の入込が増加傾向</li> <li>◎外国人観光客の入込が増加傾向</li> <li>◎現在はドライブ観光が主体</li> <li>◎継続的な観光まちづくりセミナー等の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼冬期は入込が減少</li> <li>▼来訪者のアクティビティ体験や施設利用の利用料金、入場料金の支出が少ない</li> <li>▼観光客が乗馬を気軽に楽しめる環境が整っておらず、乗馬に関する情報が不足</li> <li>▼温泉街や広く認知されたわかりやすい景勝地が無い</li> <li>▼観光 PR 等、情報発信が不十分</li> <li>▼観光関連産業の担い手不足</li> <li>▼特産品のブランド力不足</li> <li>▼道の駅や物産館がないため、来訪者の買い物、お土産代の支出が少ない</li> <li>▼観光関連施設での多言語対応が未整備</li> <li>▼外国人観光客増加による将来的な宿泊施設の不足の可能性</li> <li>▼電子決済や Wi-Fi 環境が不十分</li> <li>▼観光や交通案内が多言語化に未対応など、案内が不足</li> <li>▼観光資源が点在しており公共交通機関による観光周遊が困難</li> <li>▼道の駅のような情報発信可能な休憩施設が無い</li> <li>▼観光がまちづくりの有効な手段であると理解している町民は存在するがまだ少数派</li> </ul>
	<b>機会 (Opportunities)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎2020年に向けた国や道の動向</li> <li>◎外国人観光客の増加と旅行形態の多様化 (団体旅行から個人旅行へ)</li> <li>◎新千歳空港等の国際航空路線の開設や発着枠拡大</li> <li>◎胆振、日高地方の世界ジオパーク (国際的な認知度)</li> <li>◎「ゴールデンカムイ」人気によるアイヌ文化への興味を持つ層の急激な広がり</li> </ul>	<b>脅威 (Threats)</b>
外部要因			<ul style="list-style-type: none"> <li>▼観光市場の成熟化と観光地間の競合</li> <li>▼人口減少による国内観光市場の縮小</li> <li>▼日高線運休による脆弱な二次交通</li> <li>▼観光入込の地域的な偏在 (札幌、小樽、ニセコ等への集中)</li> </ul>

※下線はアンケート調査で確認された、あるいは関連した事項

## 2-2 基本理念

### まちの将来像（第7次浦河町総合計画）

想いを 誇りを 魅力を「つなぐ」 未来へ だれもが いきいきと 輝けるまち 浦河

### 関連する政策

「活力を生み出すまちづくり」

活力を生み出すまちづくりを実現するために、観光は有効な手段のひとつです。観光は、地域住民の幸せと地域社会の豊かさを生み出すきっかけになります。

いわゆる「観光地」ではない浦河町においては、豊かな「自然」や地元ならではの「食」の魅力、そして、農林水産業（一次産業）との近さをアピールすることが価値創造をするうえで有効です。地域特有の「歴史・文化」など、人の暮らしに触れることができる優れた地域資源を観光資源として最大限活用していくためには、合意形成に挑戦する気構えが必要になります。地域に住んでいる人たちが喜ぶ観光は住んでいる人に賛同されないと意味がないからです。これまで観光は「旅行会社」と「旅行者」の2軸で考えてきました。これからは、「地域」を加えて3軸にしていくことが重要です。

浦河町民にとっては当たり前の「幸せな日常（海がある、美しい山、丘がある、そして暮らしの近くにサラブレッドがいる）。これらに価値を見出し、訪れてみたいと願う人にどのようにアプローチしていくかが、観光振興を考える上で鍵であり、課題でもあります。

浦河への滞在で得られる上質な交流と共感体験を進展させることにより、間接的に地域社会システムの維持保全と住民満足度の向上が図られるはずです。

「外貨を稼ぎ、そのお金を地域内で循環させること」を意識する住民が増え、その結果、地元事業者（農林漁業者・商工業者他）の雇用を創出し、新たな仕事を生み出す起業家が生まれ、幅広く地域住民が新たな活躍を始めるきっかけになるのです。

### 本計画の基本理念

- ◎ 地元の当たり前が「宝物」の掘り起こしと編集 ～町民の誇りと自信の醸成、プログラムの誕生～
- ◎ 観光客受入のために町民同士の連携・役割分担を生み出す ～地域のまとまりと雇用創出～
- ◎ 観光客と町民との交流によるリピーター・ファン作り ～二地域居住・移住者の誕生～

## 第3章 計画の目標及び目標を達成するための施策

---

### 3-1 計画の目標

本計画の推進により、以下の目標の達成を目指します。

- ① 来訪者の観光満足度向上
- ② 観光人財の研修・育成、地域住民への啓発
- ③ 交流・関係人口の増加による観光消費額の増加
- ④ 観光推進体制の組織強化

### 3-2 目標の達成状況を把握するための指標

本計画の達成状況を評価するための評価指標及び現況値・目標値を以下に示します。

#### (1)第7次総合計画に関連する指標

表 3-1 目標の達成状況を把握するための指標（第7次総合計画関連）

把握する指標	目標値		将来目標値設定の考え方
	現況	将来（2021）	
着地型観光プログラムの開発と商品化	2件	10件	※現況値は2017年
外国人宿泊客延数	459人	1,000人	※現況値は2017年
外国人宿泊客数	287人	380人	※現況値は2017年
観光消費額 ※道外客の町内消費額	24,500円	27,000円	10%増加を目指す。 ※現況値は2018年
観光満足度 ※5段階評価のうち、満足・やや満足の合計	53.7%	70%	※現況値は2017年（聞き取り調査）
地域DMOの設立	0件	1件	※現況値は2018年

#### (2)地方創生総合戦略に関連する指標

表 3-2 目標の達成状況を把握するための指標（地方創生総合戦略関連）

把握する指標	目標値		将来目標値設定の考え方
	現況	将来（2019）	
着地型・体験型観光による入込客数	41人	60人	※現況値は2014年
着地型・体験型観光参加者リピート人数	3人	27人	※現況値は2017年
合宿入込客数	1,846人	2,600人	※現況値は2017年
外国人宿泊客数	287人	380人	※現況値は2017年
地域優良品認証数	0件/年	10件/年	※現況値は2016年
商品開発数	1.2件/年	2件/年	※現況値は2010年～2014年の平均値
農林漁家民泊者数	267人/年	300人/年	※現況値は2014年
乗馬療養利用者数	407人/年	440人/年	※現況値は2014年
観光満足度 ※5段階評価のうち、満足・やや満足の合計	53.7%	70%	※再掲 ※現況値は2017年（聞き取り調査）

(3)本計画独自の指標

表 3-3 目標の達成状況を把握するための指標（独自指標）

把握する指標	目標値		将来目標値設定の考え方
	現況	将来（2022）	
町内の宿泊客延数	68.7 千人	75.6 千人	10%増加を目指す。 ※現況値は 2017 年
アエルの宿泊客延べ数	19.0 千人	21.0 千人	10%増加を目指す。 ※現況値は 2017 年

### 3-3 目標達成のための観光振興に向けた具体的施策

#### 3-3-1 重点プロジェクトの設定

本町の観光振興において、重要と考えられる取り組みについて、重点プロジェクトとして位置づけ、下記の表に整理します。

表 3-4 重点プロジェクトと概要

<b>1. 滞在プログラムの開発と既存メニューのブラッシュアップ</b>
馬、アイヌ文化、自然（バードウォッチング、釣り、桜等）や魚さばき、大漁旗製作といった体験プログラム等、「浦河を訪れる目的となる」魅力あるメニューの商品化。そして、マーケットに知らせて売る仕組みづくりを確立します。
<b>2. 地域で観光客を受け入れるための人材育成</b>
乗馬、バードウォッチングを始めとする体験プログラムに対応できるガイド等、地域で観光客を受け入れる人材を育成します。 まちなかで観光客に出会う一般町民が必要な情報提供と“おもてなし”ができるようになることを目指します。
<b>3. 浦河らしさを感じられる価値が高いお土産品の更なる魅力向上と販売場所・方法の確立</b>
浦河の高品質な素材を活かしたお土産品の更なる魅力向上を目指します。 観光客が立ち寄りやすい場所にそれらの商品を揃え、情報発信と共に販売する道の駅や観光物産館等の整備検討を行います。
<b>4. 「観光からのまちづくり」に向けた町民意識の醸成と外国人受け入れ環境整備</b>
まちの観光資源は「まちの誇り」であり、観光は地域活性化を推進する重要な手段です。国内客のみならず、外国人観光客の多様な思考や文化を受け入れ、「観光からのまちづくり」を理解し行動するための町民意識の醸成と案内看板や電子決済環境の整備など、受入環境整備を図ります。 また、町民や事業者がまちの魅力や観光情報を発信する仕組みを構築します。
<b>5. 新千歳空港等からの二次交通整備</b>
北海道の玄関口である新千歳空港やとかち帯広空港と本町をはじめとする日高地域へのアクセス手段を検討します。 また、単一自治体だけでなく、既存のトンがりロードの枠組みや日高管内や十勝管内の自治体とも連携し、広域的な周遊ルートの確立を目指します。
<b>6. 町内での周遊交通の整備</b>
主体となっているドライブ観光に対応すべく、観光資源や駐車場等の案内看板の充実を行います。 また、町内での周遊観光を可能とするタクシープランやレンタサイクルの導入を検討します。
<b>7. 地域DMOの設立と戦略的なプロモーション</b>
地域における「観光からのまちおこし」の各種取組を総合的にマーケティング・マネジメントする、新たな観光推進体制の組織強化を図ります。 また、戦略的なプロモーションを実施するため、マーケットデータの調査・分析を継続的に実施するための仕組みを構築します。

3-3-2 施策体系

計画の目標	重点プロジェクト	浦河町観光の強み	浦河町観光の弱み	対応方針	施策・取り組みイメージ及びロードマップ 2018年度 2019年度 2020年度 2021年度 2022年度	実施主体
① 来訪者の観光満足度向上	1. 滞在プログラムの開発と既存メニューのブラッシュアップ	●長期滞在が可能な複合拠点施設（アエル） ●通年で過ごしやすい気候	▼冬期は入込が減少	①通年で選ばれる観光地に向けた誘客の促進	● 優駿の里の有効活用 ● スポーツ合宿等の誘致 ● 地域資源を活かした新たなツアー造成	町・観光協会 アエル 事業者
		●国内有数の馬産地で牧歌的な景観と自然景観を活かした乗馬体験メニュー ●世界レベルの育成環境を有するJRA日高育成牧場	▼来訪者のアクティビティ体験や施設利用の利用料金、入場料金の支出が少ない ▼観光客が乗馬を気軽に楽しめる環境が整っておらず、乗馬に関する情報が不足	②多様な観光プランの提案	● たらかわ旅webサイトの改善等、情報発信の強化 ● 乗馬のまちのPR強化 ● 乗馬体験プログラムの改良 ● 乗馬療育の推進 ● JRA日高育成牧場と連携したプログラムの開発	町・観光協会 アエル NPOピスカリ JRA日高育成牧場
② 観光人材の研修・育成、地域住民への啓発	2. 地域で観光客を受け入れるための人材育成	●日高山脈をはじめとする恵まれた自然環境 ●道内有数の桜並木の名所	▼温泉街や広く認知されたわかりやすい景勝地が無い ▼観光PR等、情報発信が不十分	③観光情報の発信強化	● 児童、生徒のネットリテラシー教育と連動した町民による観光情報の発信 ● リアルタイム情報の発信 ● 観光マップの見直しと周知 ● 桜並木の保全管理と魅力向上	町・観光協会 教育委員会 浦河高等学校 JRA日高育成牧場 事業者
		●アイヌ文化の継承に熱心な団体の存在と認知度向上 ●地方港湾浦河港	▼観光市場の成熟化と観光地間の競争	④国内や道内の他地域との差別化	● アイヌ文化の体験プログラムの提供と交流拠点づくり ● 自然体験プログラムの開発及び改善 ● クルーズ船の誘致	町・観光協会 アイヌ関係団体 旅行代理店
③ 交流・関係人口の増加による観光消費額の増加	3. 浦河らしさを感じられる価値が高いお土産品の更なる魅力向上と販売場所・方法の確立	●移住・交流促進対策事業 ●浦河高等学校	▼人口減少による国内観光市場の縮小 ▼観光関連産業の担い手不足	⑤観光関連産業の起業支援・人材の育成	● 高校生を含めた観光関連産業の担い手育成 ● 観光分野での移住及び起業支援	町・観光協会 教育委員会 浦河高等学校
		●多様な水産資源 ●来訪者の総合満足度は高く、とくに宿泊施設のサービスや食事に関する評価が高い	▼特産品のブランド力不足 ▼道の駅や物産館がないため、来訪者の買い物、お土産代の支出が少ない ▼道の駅のような情報発信可能な休憩施設が無い	⑥地域独自の食文化のブランディングと販売場所と販売方法の確立	● 地域優良品認証支援 ● 地域限定商品の普及、開発、プロモーション ● 浦河の高品質な素材を活かした「The浦河土産」の開発	町・観光協会 事業者
④ 観光推進体制の組織強化	4. 「観光からのまちづくり」に向けた町民意識の醸成と外国人受け入れ環境整備	●外国人観光客の入込が増加傾向	▼観光関連施設での多言語対応が未整備 ▼外国人観光客増加による将来的な宿泊施設の不足の可能性	⑦観光情報発信の拠点施設の整備	● 観光拠点整備に向けた検討 ● 町民、店舗等による近隣の観光情報の発信	町・観光協会 事業者
		●外国人観光客の旅行形態の多様化 ●継続的な観光まちづくりセミナー等の開催	▼電子決済の環境が不十分 ▼Wi-Fi環境が不十分 ▼観光や交通案内が多言語化に未対応など、案内が不足 ▼観光がまちづくりの有効な手段であると理解している町民は存在するがまだ少数派	⑧ITや写真・イラスト等を活用した説明・案内の整備による外国人観光客の取り込み ⑨全町的な電子決済環境の整備 ⑩Wi-Fi環境の整備と観光客の自発的な情報発信 ⑪必要最低限の多言語化の推進 ⑫観光からのまちづくりに向けた町民意識の醸成	● 多様なニーズへの対応の必要性の周知 ● 多言語化マニュアルの整理 ● 外国語ガイド等の人材育成 ● 全町的な電子決済環境の整備に向けた検討 ● Wi-Fiステーション設置事業の推進 ● Wi-Fiマップ作製 ● 案内看板等の必要最低限の多言語併記 ● 観光まちづくりセミナーの継続	町・観光協会 事業者 町・観光協会 事業者 町・観光協会 道路管理者 町・観光協会 事業者
④ 観光推進体制の組織強化	5. 新千歳空港等からの二次交通整備	●新千歳空港の国際航空路線の開設や発着枠拡大 ●胆振、日高地方の世界ジオパーク	▼日高線運休による脆弱な二次交通 ▼周遊ルートが確立されていない	⑬新千歳空港と日高地域を結ぶ二次交通の整備 ⑭広域連携事業の継続・推進及び日高管内や十勝管内の他自治体との連携拡大	● 観光タクシー等、外国人観光客向けの二次交通の検討 ● 新千歳空港～日高地域～十勝方面（とち帯広空港）を結ぶ周遊ルートの構築 ● フィルムコミッションによる新たな観光地づくり事業 ● 日高王国事業との連携	町・観光協会 事業者 町・観光協会 近隣自治体 事業者
		●現在ドライブ観光が主体	▼観光資源が点在しており、公共交通機関による周遊観光が困難	⑮町内で周遊可能な移動手段の整備 ⑯ドライブ観光に対応した案内の充実	● 周遊観光タクシープランの検討 ● レンタサイクルの検討 ● 案内看板の充実 ● web等を活用した駐車場等の案内	町・観光協会 事業者 町・観光協会
④ 観光推進体制の組織強化	7. 地域DMOの設立と戦略的なプロモーション			⑰地域DMOの設立	● 地域DMO設立に向けた検討 ● タウンプロモーションの実施	町

検討  
 調整・協議  
 実施

## 第4章 計画推進体制

---

### 4-1 推進体制

観光振興の推進は、観光事業者だけではなく、観光の活性化により良い影響を受ける可能性が高い業界や経済団体、そして、浦河町にとって大切な文化である馬文化、アイヌ文化、食文化に携わる人たちと共に進めていくべきであると考えています。

さらに、20年後、30年後の子供たちに責任を取れる年代の人々と共に語り合える、対話を基本とした運営をしていくべきと考えています。

浦河町における「観光からのまちおこし」を総合的にマネジメントしているのは、(一社)浦河観光協会です。しかしながら、今後、観光振興を進めていくためには、地域が一体となって観光客の受け入れ可能な態勢を整備しておくことが必要です。

そのため、本計画のもと、本町の観光振興に関する具体的な検討や協議を行う場として、具体的な事業活動計画を検討し事業を推進する協議体を設置します。

## 4-2 計画の見直し

### 4-2-1 PDCAサイクルによる見直し

達成状況の評価は、前節にて設置した協議体において実施します。

評価は、計画目標と定めた指標を基に、PDCA サイクルにより実施し、必要に応じて計画に基づく事業の実施内容に反映することとします。

### 4-2-2 継続的なモニタリングの実施

計画の適切な評価を行うためには、継続的なモニタリングが重要となります。

本計画の評価に向けたモニタリングは、関係事業者からの各種実績の提供及び町内宿泊施設の宿泊者やイベントに来場する観光客へのアンケート調査の実施により、行うこととします。



